

## ヨーロッパ・ロシア・中国における 日本型レストラン展開の支援サービス

### ヨーロッパ・英国

日本の食品産業にとって、英国はアクセスのしやすさという点においてヨーロッパ第一の市場です。英国はいまだにポンドしか使えず、かたくなな面はありますが、外来文化には極めて柔軟で、たとえば食べ物など、独自の郷土料理が少ないだけに外国製に寛容で、イタリアやフランスなどよりはるかにオープンであるだけでなく、法規制も日本とよく似ています。日本食産業がほとんど全勝といってもいいくらい成功していることは周知の事実です。

#### ● 業界状況

1. 2009年現在、英国のレストラン運営企業の総数は約7万社であり、その年間合計売り上げは約300億ポンドです。これは10年ごとに2倍に伸びており、特筆すべきは日本起源の食産業の伸びが著しいことで、もはや物珍しさからくる一時的現象ではないと言われています。
2. 日本企業が進出する場合、もっとも典型的な運営形態は現地に法人を設立して、その法人が事業展開を行うというもので、株主や役員の制限がなく、英国に居住していなくてもかまいません。また資本金も自由に設定でき、1週間で法人設立が可能です。
3. 調理師資格というものが求められず、日本から料理人を派遣する場合のみ労働許可が必要とされますが、その他の衛生基準等は専門のコンサルタントに一括して依頼する場合があります。無論これらの手続きを自分で行うことも不可能ではありません。
4. 英国における日本食レストランはロンドンに異常なほど集中しており、その分ロンドン郊外や大型地方都市における展開は、2009年現在まだまだというところですが。また店舗デザインや目標品質としては日本方式をかたくなに守るところと、名前だけは日本食でも、味も従業員も日本以外のアジア風というところに分かれるようです。前者は日本人駐在員をかなり意識しており、広く展開するには無理があるかもしれませんが、後者では結局頭打ちになるのではないのでしょうか。日本らしさ、日本的清潔さが重要であると思われます。

- **投資と手順**

不動産(家賃)は日本国内と本質的には変わりません。その場所と物件により金額が変わるだけです。一例ですけれども、下記の物件はBasingstoke市の中心部にあるものですが、年間の家賃は約300万円で、すでに飲食店の指定を受けているものです。

- **参考物件 (地方都市、市中型)**

(一例にすぎません)

- Basingstoke 市 High Street  
(ロンドンより 1 時間)
- 1 階及び地下
- それぞれ約 1700 平方フィート
- 年間賃料 ¥300 万円



場所としては、ロンドン市内、地方都市、それらを結ぶ幹線沿いなど選択肢があると思われませんが、日本と同じく Drive & Dine の傾向ははっきりしつつあると言われており、駐車場の必要性が高まっていると言われています。これらの物件を選定するときは、それが飲食店の指定を受けているかどうかをチェックする必要があります。また、調理風景が見える、トイレが極めて清潔であることなどが特徴になりうると思われれます。

- **設備投資** (極めて大雑把なものです)

**開業投資概要:** 中規模の焼き肉・お好み焼き店50坪(90平米)の場合・市街地

	費目	費用	備考
1	店舗内外装工事	約 3500 万円	看板、照明、エアコンを含む
2	電気テーブル	約 600 万円	現地調達
3	厨房設備、備品等	約 600 万円	
4	消耗品、開店費用等	約 500 万円	
5	<b>合計</b>	<b>約 5200 万円</b>	

## 売り上げ想定

	費目	費用	適用
1	月間平均売上	約 800 万円	日本単価の 1.2 倍を想定
2	材料費	約 300 万円	若干高めに想定
3	粗利益	約 500 万円	
4	店長人件費	約 50 万円	
5	スタッフ人件費	約 120 万円	4 名
6	光熱費	約 40 万円	
7	他経費	約 40 万円	
8	<b>月利益</b>	<b>約 250 万円</b>	

1. 上記は焼き肉店の場合で、ファミレスなどはもっと大きな予算になり、その分、予想売り上げも当然大きくなります。
2. 日本のファミレスは、同じようなレストランが英国にないわけではありませんが、全体としてはその完成度、品質、便利性において極めて特殊なものであり、当社のように外国からの来客が頻繁である場合、ファミレスに連れて行けばまずはずれがありません。
3. 日本人スタッフを送り込む場合、住居費や旅費などのファクターが加わります。英国進出の場合、当然最初の店舗だけで終わりという発想ではないと考えられますので、プロジェクトマネージャーを兼務する日本人の場合、そのコストはある程度別枠と考えなければなりません。
4. 外国為替の問題： 2009 年現在、英ポンドは約 150 円で推移しています。これは 10 年ほど前のレート約 40% 安であり、投資環境としては良好だと言えると思われます。しかし現地感覚では 1 ポンドは必ずしも 150 円程度の感覚ではなく、200 円程度であると感じられます。
5. 一般に製品単価は日本よりかなり高く、英国国民が付加価値に対しお金を使う傾向があるように見受けられます。

## ロシア

日本人は忘れがちですがロシアはヨーロッパです。少々荒っぽくてもその基本はヨーロッパ式で、都市部の生活はますます欧米型になりつつあります。たとえば欧米とまったく変わらないサービス品質を持つホテルやレストランが珍しくなくなりました。これはこの5年ほどで急に顕著になりました。

モスクワでも日本食は珍しくなくなり、すっかり定着しています。最近ウドン屋さんというチェーン店が成功を収めていることは報道されていますが、大事なことは、日本食が成功を収め珍しくなくなっているとはいえ、それはごく一部のメニューであり、まだまだ手つかずの市場があるということ、さらにロシアの平均所得に比し、それらレストランの価格が非常に高いということです。日本よりも高いくらいです。

モスクワにおけるレストラン展開も、基本的には日本や英国と変わりません。当社はモスクワのマーケティング会社と緊密に協力しており、日本企業が求めるすべてのサービスを提供することができます。

### ● 当社のサービスについて

当社はレストランそのものの展開に経験があるわけではありませんし、その諸雑務を代行したいと希望しているわけでもありません。当社が提供することができるのは法務・税務調査、各スペシャリストの任命、店舗運営のコンサルティングなど等もっと基本的なものであり、LOCALIZATION（企業の現地化）が完了するまでのサポートです。当社には次のような実績、能力があります。

1. コマツ、横浜ゴム、トヨタのロシア工場進出に伴う総合認証業務（日本、ヨーロッパ、ロシア）
2. SONY, CANON, PANASONIC、三菱重工等110社の欧州および日本国内認証
3. 英国と横浜に英国人スタッフ、モスクワにロシア人スタッフ

### 専門的サポート

1. 法人設立、物件調査、転貸しの調査(原契約確認)
2. 物件の使用用途確認(レストランが可能かどうか)
3. 景観上の制限・店舗デザイン、看板等・地域ごと、街路ごとに差異あり
4. 廃棄物処理方法の確認

5. 消防法、食品衛生(英国 FSA 等)
6. アルコールを販売するためのライセンス保有者の確保(英国)
7. 職員訓練、開業、事業の現地化をスムーズに行うため、希望があれば日本語のできる当社の現地人社員が一時的にクライアントの社員となり橋渡しをいたします。

## 連絡先

国内: 岡田博喜 電話 045-908-8884 [harry.okada@eurexcert.com](mailto:harry.okada@eurexcert.com)

英国: Steve Flooks [steve.flooks@eurexcert.com](mailto:steve.flooks@eurexcert.com)

モスクワ: Elena Baiykova [Elena.baykova@eurexcert.com](mailto:Elena.baykova@eurexcert.com) 日本語、英語、ロシア語

当社ホームページ [www.eurexcert.com](http://www.eurexcert.com)